



氷見市教育研究所

〒935-0016 氷見市本町 4-9
(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp

ホームページ [http://www.city.himi.toyama.jp/hp/
menu000000500/hpg000000416.htm](http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg000000416.htm)



「巨人の肩の小人は・・・」

氷見市中学校長会 会長 谷内 一

読書は苦手の方で、昔から大して本を読んでこなかった。それでも長い間に少しずつ本がたまり、置き場所がなくなってきた整理を余儀なくさせられるが、そんなとき、どうしても処分できない本が出てくる。

「心の底をのぞいたら」(なだいなだ著 筑摩書房)も、そんな本のうちの1冊である。1971年に少年向けに出版された本で、赤茶けて汚れも分からなくなっている。この本は20年ほど前、学校の改築に伴う図書館の取り壊しのために廃棄処分になる運命にあった中の1冊を、私が勝手に貰い受けたものである。中学生向けに書かれた内容で、文章表現も易しくて読みやすく、フロイトが発見した無意識の世界のことや自我の構造にまで話が及んでいる。今、このような本が図書館にあっても中学生は見向きもしないと思うが、この本の背表紙裏の貸出記録から実に多くの生徒が読んでいたことが読み取れ、当時の生徒はよく読んだものだと感心させられる。

以後、この本をネタにして、揺れ動く思春期の心の背景などを生徒によく話してやったような気がする。付け加えておくと、数年前に、偶然にも書店でこの本の続刊ともいえる「心の底に見えたもの」(なだいなだ著 ちくまプリマー新書)を見つけ、次の瞬間には買っていた。

この2冊は一度だけ、心が不安定になった生徒のために利用したことがあった。聡明な生徒だったので、「心の世界はこうなっています。今のあなたの心を見つめてみれば？」というつもりでこの2冊を何の気なしに貸してやった。というより、あげたつもりだった。後日、さすがに古いほうの1冊は汚れていて厭だったのであろうか、私のロッカーにそっと返してあった。ページに挟んだメモには読んだ後の感想がいろいろと書き添えてあった。その内容から、

昔、この本から私が受けたような感動を、この生徒も受けたものと思っている。

教育の営みの重要なことの一つは、私たちが受け継いできた知識や知恵などの不易なものを次の世代に伝えていくことであると思っている。そして、それらを受け継いだ生徒は、本来、彼ら自身も持っている才覚を、自らの努力で開花させる。その手助けができるところに教師としての喜びがあるのではないだろうか。この2冊の本のどこかに「巨人の肩の小人は巨人よりも遠くが見える」という言葉があったが、子どもたちは私達を乗り越えて遙かに成長している。教育に携わる者の喜びとは、このような営みの中にあるものなのかもしれない。

ところで、その時々の変化に応じて教育も変わらざるを得ない。ゆとり教育から一転して学力向上が叫ばれる。PISAの調査で読解力が低いからこれを上げなければならない。言われることは決して分からないわけではないが、余りに多くの改革が急速に行われ、私達の頭は飽和状態である。そんな状況下でも教育に携わる者は一生懸命努力をしている。学習指導要領も熟知する必要はあるが、ここはひとつ、すぐれた先人の力を借りるか歴史に学ぶかして、教育に対する情熱を失わず、首尾一貫した理念を持ち続けることが大切なかもしれない。

ここにもう一枚、捨てようかどうしようか迷っているコピーがある。明治時代の「石巻尋常高等小学校教員心得」である。作者は第11代校長錦織玄三郎である。ここに書かれた17の項目には、百数十年を経た現代にも、いや現代だからこそ珠玉とすべき言葉が随所にある。教育の本質は時が経ても決して変わらない。インターネットで調べればすぐに出てくる便利な時代である。時間があればご一読されたら如何であらう。

推進委員会からの報告

ふるさと教育推進委員会

「氷見の教育基本方針」、及び「ふるさと教育資料 ひみ」の改訂

十二町小学校 校長 竹越 順子

本委員会では、今年新たに策定される「氷見市教育振興基本計画」に基づいて、「氷見の教育基本方針」の改訂を行いました。これは、上記の計画の横断的プロジェクトの一つとして位置付けられ、家庭・学校・地域等が連携し合って取り組んでいくための基本方針を示したリーフレットです。これに合わせて、4年生対象の小リーフレットも改訂し、4月に配布する予定です。



<リーフレット> <ふるさと教育資料 ひみ>

一方で、中学生に配布する「ふるさと教育資料 ひみ」についても、内容の見直しを図るとともに、写真や統計データ等を差し替えたり、新たに「ふるさと教育年間計画例」を作成して、各教科・領域等とより関連させて活用できるようにしたりして、ふるさと氷見について深く学べるように工夫しました。

なお、これらの改訂に当たり、各小中学校や専門機関等より、多くの貴重な写真や資料を提供していただきましたことに、心より感謝申し上げます。

小中連携教育推進委員会

小中連携教育の推進を目指して

南部中学校 校長 仙城 徹仁

本委員会では、中学校区における効果的な小中連携教育や小中一貫的な教育の在り方について研究してきました。

特に、小中学校相互の乗り入れ授業では、1学期に十三中学校区、2・3学期に南部中学校区、灘浦中学校区の三つの中学校区で合計六つの研究授業が実践されました。授業後の研究協議会を通して、次のように成果と課題をまとめました。

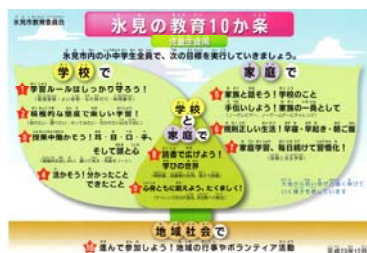
- 【成果】
- ・中学校区の小中学校にどんな教師がいるのか知ることができる。
 - ・小中学校の指導内容や授業の進め方について知ることができる。
 - ・9年間で子どもを育てようとする教師の意識改革につながる。
- 【課題】
- ・中学校区の小中学校間で教育計画、年間指導計画等を交換し、各学校の教育活動や教科・領域等の指導内容について把握する。
 - ・小中学校のどの教師を T 1、T 2 にするのか、T 1、T 2 の役割分担をどのようにするのかなど、事前の打ち合わせを充分行う必要がある。

学力向上推進委員会

キーワードは「徹底と継続」

宮田小学校 校長 中谷内 恭子

本委員会では、氷見市の児童生徒の学力向上、教員の授業力向上のための具体的な方策について研究しました。まず、各校でのそれぞれの取り組みを参考にしながら、氷見市全体の教育充実のためのポイントを「氷見の教育10か条」(教師・保護者用、児童生徒用)としてまとめ、氷見市内の全小中学校に配布しました。今後は、その活用や評価についても研究していこうと考えています。



< 氷見の教育10か条 >
(児童生徒用)

また、「氷見市学力向上だより」を3回発行し、学力向上拠点校の実践や、県外へ研修視察に行った先生方の報告、推進委員の勤務校での取り組みを紹介しました。

ぜひ、「氷見の教育10か条」や「氷見市学力向上だより」の事例を参考にいただき、「徹底と継続」をキーワードとして、各校の全教職員が同じベクトルで実践し続けていただきたいと思います。

平成23年度 教育論文・教育実践記録の審査結果

本年度は小中学校合わせて13編の教育実践記録の応募がありました。内容は、地域と繰り返しかかわった実践やいのちの教育、不登校児童への対応などで、どの実践記録からも今日的な課題の解明に向けて熱心に取り組まれた様子が伝わってきました。

表彰式には、西部教育事務所 主任指導主事 牧 てるよ 先生から講評をいただきました。先生は、入賞された皆さんのよい点などを紹介された後、今後、教育論文・教育実践記録にまとめる際に留意してほしいことを教えてくださいました。



＜発表をする松木教諭＞

＜留意してほしいこと＞

○ 理論的なまとめ方の工夫

実践内容を構造的にまとめたり、研究の視点に基づいて多面的に分析したりして整理する。

○ 評価の妥当性を高める工夫

どんな目的で、どの教科で研究するのかを明確にし、手だてが有効であるデータや子どもの変容の裏付けがあると信頼度が高くなり、説得力をもたせることができる。

実践記録にまとめることは大変な作業ですが、日々の授業を見直し、ねらいと手だてが一貫していたかなどを子どもの変容を通して考えることができ、教師としての指導力を高めるよい機会となります。来年度は、さらに多くの学校や先生方からの応募があることを願っています。

	学校名 氏 名	研 究 主 題		
一 席	湖南小学校 松木 妙子	友達大好き！湖南が大好き！ 願いや目標をもち、主体的に学び、生きる子どもの育成を目指して －第2学年生活科「ぼくたちわたしたち湖南っ子 わくわくたんけんたい」の実践を通して－		
二 席	窪 小学校 澤村 梢	生命の尊さを感じ取り、よりよく生きようとする 子どもを育てるために ～第4学年道徳の実践を通して～		
三 席	比美乃江小学校 宮林 次美	自分の力を生かし、進んで追究する子どもの育成を目指して －「よむ力」「生かす力」を中心に、 思考力・判断力・表現力を高める学習活動の在り方－		
三 席	上庄小学校 高島 寿恵	保健室登校児童への支援の在り方 －保健室登校児童とのかかわりを通して－		
学校賞	灘浦小学校 研究推進部	「確かな学力を身に付け、学び合う灘浦っ子の育成」を目指して		
入 選	朝 日 丘 小 学 校		明和小学校	林 ゆかり
	宮田小学校	松本 富昭	海峰小学校	寺澤 小織
	宮田小学校	高畑 清美	灘浦小学校	池田 充良
	窪 小学校	梅基麻衣子	北部中学校	研究推進部会

※ 詳しくは、紀要第267号「平成23年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

教育雑誌等をどんどん活用してください!!

3学期になると、市教文センターの3階にある図書コーナーへ、「来年度の年間指導計画を作成するのに参考にしたい」とか「平成24年度から中学校の新学習指導要領が全面実施となるので、研究したい」などと言われて多くの先生方が教科書等を借りに来られます。図書コーナーが活用されていることを大変うれしく思います。

◎ 心に残った記事や参考になる記事の一部を紹介します。

総合教育技術 3月号 「育てる楽しみ、伸びる喜び」

植草学園大学発達教育学部教授 野口 芳宏

叱る意味、叱られる訳 ー運を決める「素直さ」ー

◇ 幸運は「素直さ」がつくる

運のよい人は、必ずしも運だけでその人生が良くなっているのではない。運の良くなるような生き方をする人に、運が付いてくる。千葉大学附属小学校の四宮 晟 先生は「素直な者は伸びる。素直でない者はのびない」と言われた。「素直さ」こそが、その人が育つか育たないか、伸びるか伸びないかの鍵なのである。

◇ 素直さを育む指導

教育においても、子どもはまず自分の非を認め、叱責を受容する「素直さ」を身につけるべきである。そのように導くことが教育なのであって、子どもを苛立たせないようにすることが教育ではない。

指導と評価 3月号 「いま、理科の授業で本当に大切にしたいこと」

早稲田大学教授 露木 和男

5年生の「振り子の授業」を見て、振り子が戻ってくる時間は、おもりが重いほど速いと思う子どもいれば、振れ幅が少なければ戻ってくる時間も少なくてすむと考える子どもも多い。この「どうなのか」という子どもの「矛盾意識」が授業の核になるべきだと考える。このような「矛盾状況」は確実に子どもを動かす。そのとき、自分の思いを仲間に伝えたい、話したいという強い熱意が「分かりやすく話す」につながっていく。

☆ 「理科の授業で大切にしたいこと」の3つの視点

- ・子どもの論理を探り、「前提」はどこにあるかを知ること。
- ・その前提に対して、ひっくり返るような「矛盾」をどう設定するかを考えること。
- ・「ああ、そうだったのか、そういうことだったのか」という「再構成」の場を組み込むこと。

道徳教育 3月号 これからの道徳授業を構築する

東京学芸大学教授 永田 繁雄

◇ 道徳授業の「壁」を可能性の「扉」に変える

多様な授業スタイルを生み出し併存させようとする開発的発想に立つ授業は次のような構えや方向性をもっている。

ア 子どもの問題意識を生かす・・・気がかりやこだわりを生かした授業を大事にする。

イ 気持ちを問うだけに終わらない・・・共感的な発問は主題を深める手段であり、そこにとどまらない展開を大事にする。

ウ 時系列な展開だけにとらわれない・・・順番に気持ちを問う順接的な授業からの脱皮も大事にする。

エ テーマを問う発問を増やしていく・・・資料の問題や主題自体を問う発問を生かす。

オ 切磋琢磨型、問題追求型の授業を発想する・・・多様な考えの磨き合いによるディスカッションなど、力強い追求を大切にする。

生徒指導 3月号 「朝の読書」と生徒指導

関西学院大学准教授 中村 豊

毎朝、自分の読む本を自己選択し、教師からの課題ではなく自己決定した本を自分の責任で一定時間読むという学習活動は、他の教育活動には見られない取り組みである。また、一人ではできないことも「みんなでやる」という集団の力により無理なく達成できるという側面がある。さらに、誰もが取り組める時間設定により「毎日やる」ことで読書習慣の形成を図ることができる。このように、「朝の読書」には、読書教育だけにとどまらない、多様な生徒指導の機能がある。

今後、「朝の読書」を通して育つ資質や能力を実証的に示していくこと、特に、生徒指導の機能を再評価していくことが求められている。